

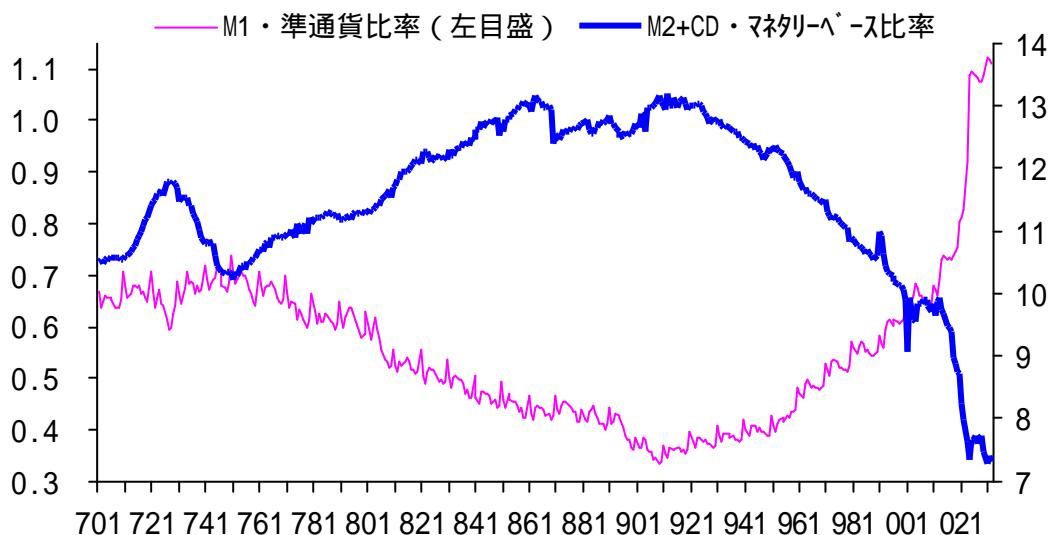
本日発表の経済指標（03年3月10日）

曾我 純

2月のマネーサプライと貸出・資金吸収動向

昨年11月以降、マネーサプライ（M2+CD、MS）は3ヵ月連続で伸びが鈍化していたが、2月は前年比2.0%増と前月の伸びを0.1ポイント上回った。ただ、昨年3月の3.7%増をピークに緩やかに低下している流れは変わっていない。現金と預金通貨の合計額であるM1の伸びは低下し、定期預金等の準通貨のマイナス幅は縮小しているが、M1（336.0兆円）が準通貨（317.2兆円）よりも多い状態が昨年4月以降、11ヵ月続いている。

M1・準通貨と信用創造



出所：日銀

M1・準通貨比率の上昇は信用創造を弱め、量的緩和によるマネタリーベース（MB）増大の効果を削いでしまっている。01年9月以降、日銀は量的緩和に夢中になっているが、MSをMBで割った値は7.3と過去最低なのである。M1・準通貨比率が急上昇する過程では、量的緩和は信用創造には効かないのだ。MS・MBは90年代の初めには13を超えていたが、その後、M1・準通貨比率の急上昇の動きに反比例していった。

2月の銀行貸出は前年比4.8%減と前月と同じマイナス幅だった。都銀は-7.5%と減少幅が地銀（-0.3%）や地銀（-1.7%）と比較にならないくらい大きい。今日、大手都銀のなかには10%を超える株価の下落をみたところもあるが、こうした大幅な貸出減も影響しているのだと思う。